

ギョウブ 7

2016 年お年賀号

gyahunkoubou.com



J-pop 好きが選ぶ

初心者におすすめの
洋楽アーティスト 10

会社に行きたくないときに効く！
『ジョジョ (第3部)』

の名言 10

ホラー初心者に贈る！

いますぐ観たくなる
名作ゾンビ映画 10

まるで短編映画！

何度も再生したい
ミュージックビデオ 10 + α

ぎゃふん⑦試し読み版

7



7



はじめに ブログは毎日更新するものって誰が決めたの？

「ブログの書き方」を指南する書籍やネットの記事なんかを見ると、「ブログは毎日更新しよう」といったことが書かれています。しかし、わがブログ〈ぎゃふん工房の作品レビュー〉は、多いときでも1～2週間に1回程度の更新に留まっています。毎日更新する時間も気力もない。それも理由のひとつです。でも、それ以上に「そこまでがんばったあとに何が残るの？」という疑問があるからです。

ブログを毎日更新すべきなのは、コツコツ記事の数を増やしていけば、着実にアクセス数をアップできるからです。たとえば、ブログに1000個の記事があり、ひとつの記事を毎日10人が読めば、1日1万、月間30万のアクセスが稼げるわけです。

ただし、そもそも継続的に10人がアクセスする記事を毎日更新するのは至難のワザです。それなら、1日100人に読んでもらえる記事を10日に1回アップしても同じではないか？

そこで、昨年（2015年）は「更新頻度を増やすのではなく、ひとつひとつの記事のクオリティーを上げる」という方針で記事を作っていました。1日10人よりも、1日100人が読む記事のほうが価値が高いのでは？ というわけです。

今回の『ぎゃふん』は、そんな記事を収録しました（実際は毎日100人に読まれているわけではありませんが）。

例によって個人の趣味だけで作られた小冊子ですが、お楽しみいただければ幸いです。

2016年1月1日 米田政行（ぎゃふん工房）

もくじ

はじめに	ブログは毎日更新するものって誰が決めたの？	4
------	-----------------------	---

J-pop 好きが選ぶ 初心者におすすめの洋楽アーティスト 10 6

1	テイラー・スウィフト	8	6	ケイティ・ペリー	13
2	マルーン 5	9	7	メーガン・トレイナー	14
3	ジェイソン・デルーロ	10	8	エド・シーラン	15
4	アリアナ・グランデ	11	9	カーリー・レイ・ジェプセン	16
5	ブルーノ・マーズ	12	10	ファイヴ・セカンズ・オブ・サマー	17

会社に行きたくないときに効く！『ジョジョ（第3部）』の名言 10 18

1	逃げる	20
2	短所がすなわち長所になる	21
3	楽しみが倍増したってワクワクした笑いさ	22
4	おもしろくなってきたぜ	23
5	こんな苦しい時こそ冷静に対処すれば必ず勝機はつかめるはずじゃッ！	24
6	これが私の『スタンド』の能力	25
7	一番より No. 2	26
8	精神的動揺による操作ミスは決してない！と思っていたらこうッ！	27
9	船員全員にこの手をためすつもりでいただけのこと	28
10	人は誰でも不安や恐怖を克服して安心を得るために生きる	29

ホラー初心者に贈る！ いますぐ観たくなる名作ゾンビ映画 10 30

1	ナイト・オブ・ザ・リビングデッド	32	6	ランド・オブ・ザ・デッド	37
2	ゾンビ	33	7	28日後	38
3	死霊のえじき	34	8	REC/レック	39
4	ナイト・オブ・ザ・リビングデッド/死霊創世記	35	9	バイオハザード	40
5	ドーン・オブ・ザ・デッド	36	10	バタリアン	41

まるで短編映画！ 何度も再生したいミュージックビデオ 10 + α 42

1	MICHAEL JACKSON 「Thriller」	44
2	AKB48 「ギンガムチェック」	44
3	MACKLEMORE & RYAN LEWIS 「CAN'T HOLD US FEAT. RAY DALTON」	45
4	MAROON 5 「Maps」	45
5	CARLY RAE JEPSEN 「Call Me Maybe」	46
6	TAYLOR SWIFT 「You Belong With Me」	46
7	AAA 「風に薫る夏の記憶」	47
8	Aimer (エメ) 「あなたに会わなければ～夏雪冬花～」	47
9	ケラケラ 「さよなら大好きだったよ」	48
10	ARIANA GRANDE 「One Last Time」	48
11	TAYLOR SWIFT 「Bad Blood ft. Kendrick Lamar」	49
12	KATY PERRY 「Firework」	49

なぜか評価が真二つに分かれた『サイコブレイク』を買おうか悩む人へ 50

戦慄怪奇ファイル コワすぎ！は白石監督がコワすぎ！ 58

<http://gyahunkoubou.com/recommended-musicians.html>

J-pop 好きが選ぶ

初心者におすすめの



人の音楽の趣味は二十代のころには決まってしまうという。しかし、本誌が洋楽を本格的に聴くようになったのは四十代になってからだ。それまでは、もっぱらJ-popを聴いていた。

ここでは、そんなJ-pop好きがオススメしたい洋楽アーティストを挙げてみる。音楽の好みが二十代から変わらないのなら、ここで紹介するアーティストの曲は、どこかJ-popらしさを持っているのかもしれない。洋楽になじみのない人も聴きやすいものばかりが集まっているはずだ。

洋楽アーティスト

10

1 TAYLOR SWIFT

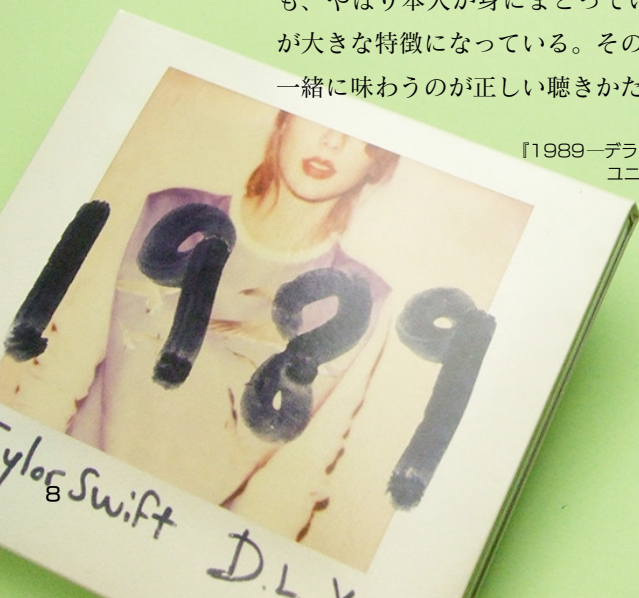
テイラー・スウィフト

ほとぼしるセレブ感も一緒に味わう

2015 年はまさに“テイラー・スウィフトの年”だったと言っても言い過ぎではない。曲を出すたびにトップに君臨。まさに無双状態。もちろん、売れている曲が良いとは限らない。限らないが、ディープな洋楽ユーザーでないのなら、素直にテイラー・スウィフトを受け入れられるはずだ。

本人はカジュアルに、ときに粗野に歌っているつもりでも、つねに高級感や清潔感が滲み出てしまう。楽曲そのものの完成度が高いのもあるけれども、やはり本人が身にまとっている“セレブ感”が大きな特徴になっている。その持ち味を楽曲と一緒に味わうのが正しい聴きかただと思う。

『1989—デラックス・エディション』
ユニバーサル ミュージック



透き通るボーカル&サウンド

マルーン5は、ロックバンドなのか、それともポップスか。その区別をつけるのは本誌のような素人には難しい。また、そうする意味もないだろう。

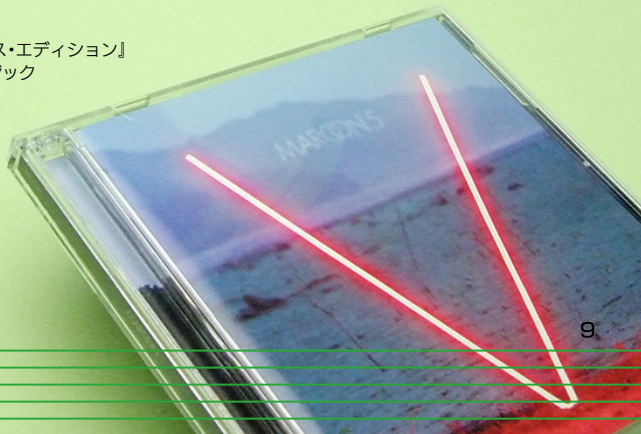
マルーン5

MAROON 5

2

ただひとつ言えるのは、メロディーの運びがどんなに荒々しくても、彼らのサウンドは澄んでいること。とくにボーカルの高音が美しい。だから、品が下らない。透明感があってクセがなく、洋楽の初心者には聴きやすいのだ。こだわりのある人は、物足りないかもしれないけど。

『V 日本限定デラックス・エディション』
ユニバーサル ミュージック



宇宙規模で広がるラブ・ソング

ジェイソン・デルーロを聴いてまず思うのが「スケールがでかいな」ということ。歌詞の内容が、というわけじゃない。音の広がり、音場作りがなんとなく“宇宙空間”を思わせる。ただし、宇宙のように無限に“音の空間”が続いているようで、じつは彼の作り出した世界に聴く者はガシッと閉じ込められてしまう。

『エヴリシング・イズ・4』
ワーナーミュージック・ジャパン



そんなふうに楽曲に浸っているうちにやがて感じるのは〈懐かしさ〉。1980年代のサウンド。ジェイソン・デルーロはまだ二十代の若者だけど、やっていることは、レトロ・フューチャーなのだ。

3

ジェイソン・デルーロ

JASON DERULO

甘さが濃縮された歌声

アリアナ・グランデは、ちょっとズルい。IGGY AZALEA、ZEDD、THE WEEKND といった今をときめくヒットメーカーに手伝ってもらっているのだから。売れないわけがない。ひとのフンドシで相撲をとっているようなもんだ。

アリアナ・グランデ

ARIANA GRANDE

『マイ・エヴリシング〜デラックス・エディション』
ユニバーサル ミュージック

では、〈アリアナ・グランデ〉単体の部分、すなわちボーカルにだけ着目してみるとどうだろう？これが良いのである。ハスキーボイスのようでいて、つまり苦いようでいて、実際は果実を口に含んでいるような“甘み”がある。要は、ボーカルだけでも（他人の胸を借りなくても）十分聴かせるわけだ。とくに高音の伸びは素晴らしく、聴く者を高みへと上げてくれる。



4

古き良き音楽を再現

曲を聴いて懐かしさを覚える点で、ジェイソン・デルーロに似ている。しかし、あちらがあくまで往年の音楽をリスペクトしつつ新しい音を作っているのに対し、ブルーノ・マーズは古い音楽そのものをやっている。そんな気がする。

5 ブルーノ・マーズ BRUNO MARS

ただ、本誌が素人だから「気がする」だけで、専門家から見れば違うかも。本人もそんなつもりはないかもしれない。それでも、もう少しこの方向で突っ込んで考えてみる。すると、このコーナーで挙げているほかのアーティストからは感じられない情感、“心の叫び”のようなものが聴こえてくる。これがもしかすると、昔の音楽にあって今のヒット曲にはない要素なのかもしれない。



『アンオーソドックス・
ジュークボックス』
ワーナーミュージック・
ジャパン

6

ケイティ・ペリー KATY PERRY

貫禄たっぷりのボーカル

ケイティ・ペリーの歌声を聴くと、その重量感に圧倒される。聴く者を包み込む——というよりも、ボーカルという“魔法の絨毯”にむりやり乗せられ、体ごとどこかへ運ばれてしまうような、そんなパワー、そんな馬力に満ちている。



『プリズム』
ユニバーサル ミュージック

体が運ばれるのは、もちろん比喻。実際は体はそのまま心だけが引っ張られる感じ。べつの言いかたをすれば「元気がわいてくる」。ケイティ・ペリーには静かな曲もあるけれど、持ち味はやはりこの〈高揚感〉なのだ。

つづきは正式版でお楽しみください。



© 2001 - 2016 GYAHUN Koubou

2016年1月1日 デジタル1.0版 発行

2022年3月3日 デジタルリマスター版 発行

出版者 米田政行

発行所 Gyahun工房
mail@gyahunkoubou.biz